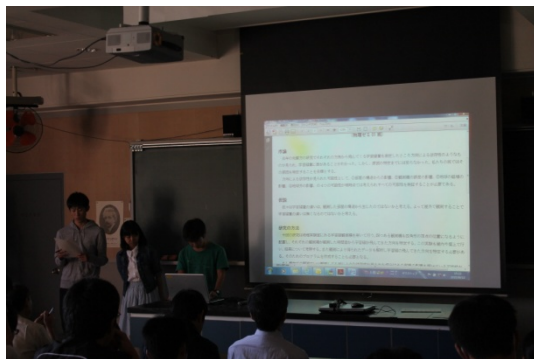


9月15日と10月6日に学術研究 SAB の中間発表会が各ゼミで行われ、各班がそれまでの進捗状況やこれからの研究の進め方について発表しました。今回の *SR times* では、各ゼミの中間発表会の内容についてお伝えします。

・物理ゼミ

各班が研究テーマを明確にしており、それが実験にもよく反映されていたように思われた。また、発表に関しては全体を通してしっかりと行うことができていた。しかし、生徒からの質問は少なく、これからの実験のためにもより活発な意見交換があってもよかったと思った。



・化学ゼミ

時間に限りがあり、なかなか大変な発表であった。進度に少し不安があったが、どの班も実験が想像以上に進んでおり驚いた。発表も詰まることなくスムーズに行うことができた。自分たちにとっても良い刺激となる発表会だった。

・生物ゼミ

どの班も当日までにスライドを完成させており、終始スムーズに発表を行うことができた。質問も積極的に行われ、また、担当の先生方の鋭い指摘やアドバイスもあり、それぞれの改善点を発見することのできた内容の濃い発表会だった。

・地学ゼミ

人数が少ないゼミではあるが、全員が各班の発表を真剣に聞き、質問も多く、活気のある中間発表となった。それぞれの班が分かりやすく研究を伝えるための工夫をしていた。先生方からは、「目的を絞れ」と助言をいただいたので、今後はその点を見直しながら研究を進めていきたい。

・数学ゼミ

全体として、深い研究をしていたように思ったが、発表用の資料の提出が間に合わない人も多く、もったいなさを感じた。先生方からは、「ただ調べるだけでなく自分の予想をもって研究するべき」などとアドバイスをいただいた。



・情報ゼミ

情報ゼミではパワーポイントを用いて各班の目標や進捗状況などについて発表した。各班の研究テーマは、アプリケーションやプロジェクションマッピングの作成、人工知能についての研究などだった。ほとんどの班に、研究対象に関する知識の習得などの課題があった。今回の反省をもとに研究を進めていきたい。

・国語ゼミ

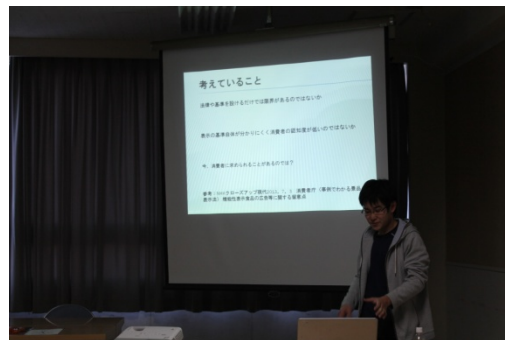
発表する順番決めからの開始となったが、発表開始後はスムーズに進行することができた。質疑応答では、基本的に皆適切に対応できていると感じられた。先生方からは、「国語ゼミとしていかに検証などを進め考察するかがこれからの課題」などと講評をいただいた。

・地歴ゼミ

地歴ゼミでは多種多様なテーマでの発表が行われた。中には難しいテーマや専門的な分野のテーマもあり、質疑応答の内容は、研究の手法や資料の扱い方についてが多かった。ゼミ担当の先生からは、資料、知識量についての指摘が多かった。

・公民ゼミ

全員の発表に対する評価が、終了後に渡す・渡されることで、緊張感のある発表となった。中間発表ということもあり、研究の内容の濃さには個人差があった。質疑応答もとても質が高く、様々な意見から研究にオリジナリティを出すための糸口が見つかるケースもあり、非常に有意義だった。



・英語ゼミ

各班真剣に発表を行っており、聞き手も積極的に質問するなど、有意義な時間とすることができた。また、事前に中間レポートをコピーしていただき、全班の資料が手元にある状態で発表を聞いたことによって、発表内容が理解しやすくなり、活発な発表会とすることができた。

・音楽ゼミ

全体として討論が活発でよかった。しかし、しっかり準備している班とそうでない班の内容の深さの差がはっきりしており、班内で研究したい内容がまとまっていないように思われた。担当の先生からも、研究したいものを絞るべきだという意見をいただいた。

・家庭科ゼミ

家庭科ゼミは、音楽ゼミと合同で中間発表を行った。グループ内で3分野に分かれ、それぞれが担当する分野の進行状況や仮設等を発表した。発表を通して、言葉1つ1つに具体性をもたせ、論理的に説明しなければならないと感じた。また、研究が他のグループと比べて遅れ気味だったので、速やかに研究を進めたい。

編集後記

中間発表の実施から茶畑S Rtimesの発行までだいぶ時間がたってしまい、大変申し訳ございませんでした。

多くのゼミで、活発的な意見交換が行われていたり、ゼミ担当の先生方から今後の研究に向けてのアドバイスなどをもらったりしており、とても有意義な中間発表会になったと思います。次のポスター発表会では、中間発表を経て深まった互いの研究発表をよく聞き、よりよい発表会にできるように心がけていきましょう。